

シラバス

指定番号

商号又は名称: 株式会社ワイズブレイン

科目番号・科目名	(1) 職務の理解 (6時間)			
指導目標	①研修課程全体の構成と各研修科目相互の関連性の全体像をイメージできるようにする。 ②130時間の講習の構成と10科目相互の関連性の全体像を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①多様なサービスの理解	3	3	0	<講義内容> ・介護保険による居宅サービス ・介護保険による施設サービス ・介護保険外のサービス
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	0	<講義内容> ・介護サービスを展開する現場の実際 ・介護サービスの提供にいたるまでの流れ ・介護過程とチームアプローチ
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称: 株式会社ワイズブレイン

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)			
指導目標	<p>①介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解する。</p> <p>②介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れることを理解する。虐待の定義、身体拘束及びサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護について基本的なポイントを理解する。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①人権と尊厳を支える介護	3.5	1	2.5	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳の保持 ・ICF (国際生活機能分類) ・生活の質 (QOL) ・ノーマライゼーション ・虐待防止・身体拘束禁止 ・個人の権利を守る制度の概要 <p><通信学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳の保持 ・ICF (国際生活機能分類) ・生活の質 (QOL) ・ノーマライゼーション ・虐待防止・身体拘束禁止 ・個人の権利を守る制度の概要
②自立に向けた介護	3.5	1	2.5	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における自立支援の考え方について ・介護予防の考え方について <p><通信学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における自立支援の考え方について ・介護予防の考え方について
③人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府人権白書ゆまにてなにお資料配布 ・人権について、その大切さを学ぶ ・人権への取組みについて ・身近な人権のことについて
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：株式会社ワイズブレイン

科目番号・科目名	(3) 介護の基本 (6 時間)			
指導目標	①介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクと対応策のうち重要なものを理解する。 ②介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。 ③介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について理解する。 ④介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療、看護との連携の必要性について理解する。 ⑤介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを理解する。 ⑥生活支援の場に出合う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを理解する。 ⑦介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントの在り方、留意点を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1	<講義内容> ・介護環境の特徴の理解 ・介護の専門性 ・介護にかかわる職種 <通信学習課題> ・介護環境の特徴の理解 ・介護の専門性 ・介護にかかわる職種
②介護職の職業倫理	2	1	1	<講義内容> ・介護サービスの公共性と職業倫理 ・利用者・家族に対する責任 ・社会に対する責任 <通信学習課題> ・介護サービスの公共性と職業倫理 ・利用者・家族に対する責任 ・社会に対する責任
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	0.5	0.5	<講義内容> ・介護における安全の確保 ・事故予防安全対策・感染対策 <通信学習課題> ・介護における安全の確保 ・事故予防安全対策・感染対策
④介護職の安全性	1	0.5	0.5	<講義内容> ・健康管理とストレスマネジメント ・介護職員の労働の権利と労働法 <通信学習課題> ・健康管理とストレスマネジメント ・介護職員の労働の権利と労働法
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：株式会社ワイズブレイン

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)			
指導目標	①介護保険制度や障がい福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービスの利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを理解する。 ②生活全体の支援の中で介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について理解する。 ③介護保険制度や障がい福祉制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料の負担の大枠について理解する。 ④ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて理解する。 ⑤高齢障がい者の生活を支えるための基本的な考えを理解し、代表的な障害福祉サービス、権利擁護や青年後見人の目的、内容について理解する。 ⑥医療行為の考え方、一定の要件のもと介護福祉士等が行う医療行為について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護保険制度	4	0.5	3.5	<講義内容> ・介護保険制度創設の背景、目的および動向 ・介護保険制度の仕組みの基本的理解 ・制度を支える組織・団体の機能と役割、財源 ・ケアマネジメント <通信学習課題> ・介護保険制度創設の背景、目的および動向 ・介護保険制度の仕組みの基本的理解 ・制度を支える組織・団体の機能と役割、財源 ・ケアマネジメント
②医療との連携とリハビリテーション	2.5	0.5	2	<講義内容> ・医行為と介護 ・医療と介護の連携 ・リハビリテーション職種との連携 <通信学習課題> ・医行為と介護 ・医療と介護の連携 ・リハビリテーション職種との連携
③障がい者総合支援制度およびその他制度	2.5	0.5	2	<講義内容> ・障がい福祉制度の理念 ・障がい者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ・個人の権利を守る制度の概要 <通信学習課題> ・障がい福祉制度の理念 ・障がい者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ・個人の権利を守る制度の概要
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称: 株式会社ワイズブレイン

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)			
指導目標	①高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき (取るべきでない) 行動例を理解する。 ②共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて理解する。 ③家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として持つべき視点を理解する。 ④言語、視覚、聴覚障がい者とのコミュニケーション上の留意点を理解する。 ⑤記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護におけるコミュニケーション	3	1.5	1.5	<講義内容> ・介護におけるコミュニケーションの技法 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技術の実際 <通信学習課題> ・介護におけるコミュニケーションの技法 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技術の実際
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	1.5	1.5	<講義内容> ・チームにおけるコミュニケーションとは ・コミュニケーションを促す環境 ・報告などについて ・記録における情報の共有化 <通信学習課題> ・チームにおけるコミュニケーションとは ・コミュニケーションを促す環境 ・報告などについて ・記録における情報の共有化
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称: 株式会社ワイズブレイン

科目番号・科目名	(6) 老化の理解 (6 時間)			
指導目標	①加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。 ②加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について理解する。 ③高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴および治療・生活上の留意点、および高齢者の疾病による症状や訴えについて理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①老化に伴うところとからだの変化と日常	3	1.5	1.5	<講義内容> ・老化に伴うところとからだの変化と日常 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 <通信学習課題> ・老化に伴うところとからだの変化と日常 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響
②高齢者と健康	3	1.5	1.5	<講義内容> ・高齢者の疾病と生活上の留意点 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 <通信学習課題> ・高齢者の疾病と生活上の留意点 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：株式会社ワイズブレイン

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解 (6時間)			
指導目標	①介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するとこの判断と基準となる原則の理解をする。 ②認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方を理解する。 ③健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いを理解する。 ④認知症の中核症状と行動・心理状態 (BPSD) 等の基本的特性、およびそれに影響する要因を理解する。 ⑤認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションの取り方、および介護の原則の理解と若年性認知症の特徴を理解する。 ⑥認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について理解する。 ⑦認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを理解する。 ⑧認知症の利用者とのコミュニケーション (言語・非言語) の原則、ポイントについて理解でき、具体的なかかわり方について理解する。 ⑨家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスが理解できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①認知症を取り巻く状況	1.5	0.5	1	<講義内容> ・認知症ケアの理念パーソン・センタード・ケア <通信学習課題> ・認知症ケアの理念パーソン・センタード・ケア
②介護職の職業倫理	1.5	1	0.5	<講義内容> ・認知症の概念 ・認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント ・健康管理 ・認知症の治療 <通信学習課題> ・認知症の概念 ・認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント ・健康管理 ・認知症の治療
③医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1	1	<講義内容> ・認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の利用者への対応 <通信学習課題> ・認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の利用者への対応
④家族の支援	1	0.5	0.5	<講義内容> ・家族介護の現状の理解 ・介護家族による本人の理解とかかわり方 ・介護職による介護家族の心理の理解と支援 <通信学習課題> ・家族介護の現状の理解 ・介護家族による本人の理解とかかわり方 ・介護職による介護家族の心理の理解と支援
(合計時間数)	6	3	3	
使用する機器・備品等				

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称: 株式会社ワイズブレイン

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解 (3時間)			
指導目標	①障がいの概念と ICF、障がい者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。 ②各障がいの内容・特徴および障がいに応じた社会支援の考え方について理解する。 ③障がいの受容のプロセスと基本的な介護の考え方を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①障がいの基礎的理解	1.5	0.5	1	<講義内容> ・障がいの概念と ICF ・障がい福祉の基本理念 <通信学習課題> ・障がいの概念と ICF ・障がい福祉の基本理念
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的理解	1	0.5	0.5	<講義内容> ・身体障がい ・知的障がい ・強度行動障がい ・精神障がい ・難病 <通信学習課題> ・身体、知的、強度行動、精神などの障がいと難病
③家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5	0	<講義内容> ・家族への支援
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：株式会社ワイズブレイン

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)			
指導目標	<p>①介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</p> <p>②尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p> <p>③主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について理解する。</p> <p>④要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則(方法・留意点、その根拠等)、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法について理解する。</p> <p>⑤利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備について理解する。</p> <p>⑥人の記憶の構造や意欲などを支援と結びつけることを理解する。</p> <p>⑦人体の構造や機能が理解でき、何故行動が起こるかを理解する。</p> <p>⑧家事援助の機能と基本原則について理解する。</p> <p>⑨装うことや整容の意義について理解する。指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。</p> <p>⑩体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を理解する。体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。</p> <p>⑪食事の意味と食事を取り巻く環境の方法を理解する。食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。</p> <p>⑫入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を理解する。入浴に関するからだの仕組みを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。</p> <p>⑬排せつの意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を理解する。排泄に関するからだの仕組みを理解し、指示に従った介助を行うことができる。</p> <p>⑭睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を理解する。睡眠に関するからだの仕組みを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。</p> <p>⑮ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人、家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携(ボランティアを含む)について理解する。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護の基本的な考え方	6	3	3	<p><講義内容></p> <p>◎介護の基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 主だった状態像の高齢者のイメージができ要介護等に応じた在宅・施設等における生活について 利用者の身体の状態に合わせた介護について 要介護や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則(方法・留意点・その根拠等)について ICFの視点に基づく生活支援・法的根拠に基づく介護 理論に基づく介護・我流介護の排除 <p>◎重度化防止の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の中の介護予防の考え方について 介護予防プログラムによる機能低下の予防についての考えや方法について <p><通信学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 介護の基本的な考え方
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	2	1	<p><講義内容></p> <p>◎高齢者の心理</p> <ul style="list-style-type: none"> からだの状態がこころに与える影響、こころの持ち方が行動に与える影響、学習と記憶の基礎知識、老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因について <p>◎自己実現と生きがいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己概念と生きがいについて 感情と意欲の基礎知識について <p><通信学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 介護に関するこころのしくみの基礎的理解

③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	2	2	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎人体の名称とはたらき <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造について ・人体の機能について ◎ボディメカニクスの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ボディメカニクスの原則、姿勢と動作、日常生活における基本動作、介護職の姿勢・動作とボディメカニクスについて ◎神経系に関するからだのしくみ <ul style="list-style-type: none"> ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、自律神経と内部機関に関する基礎知識、こころとからだを一体的に捉えることについて ◎バイタルチェック <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサインとは ・脈拍・心拍・血圧・体温・呼吸について <p><実技・演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎グループワーク実施 <ul style="list-style-type: none"> ・血圧測定・体温・脈拍・心拍の測定体験 <p><通信学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護に関するからだのしくみの基礎的理解
④生活と家事	6	3	3	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎家事と生活の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・生活援助（家事援助）の機能について ・生活援助（家事援助）の基本原則について ◎生活援助（家事援助）に関する基礎知識と生活支援 <ul style="list-style-type: none"> ・生活援助（家事援助）の意義と目的について ・調理・掃除・洗濯・衣類の補修・衣類、寝具の衛生管理・買い物支援について <p><実技・演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣類の補修 ・洗濯（絵表示の確認・排泄物の付着した衣類の洗い方） <p><通信学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活と家事
⑤快適な住環境整備と介護	6	3	3	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎住環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・住宅の役割と機能について ・家庭内に多い事故について ・高齢者・障がい者にとって快適な住まいについて ・住宅の汚れについて ◎福祉用具の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具の活用について ・居住環境と福祉用具について <p><実技・演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎グループワーク実施 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具の活用 <p><通信学習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な住環境整備と介護
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立支援	6	6	0	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎整容に関する基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> ・装うこと、整容の意義について ・整容の意味、衣服着脱の持つ意味について ・整容行動、身支度、身体状況に合わせた衣服の選択 ◎整容の介護 <ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみについて ・指示や根拠に基づいて部分的な介護について ◎衣類の着脱介護 <ul style="list-style-type: none"> ・衣類の着脱介護の原則について ・衣類の着脱介護のポイントについて <p><実技・演習、視聴覚教材（DVD）使用></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎グループワーク実施 <ul style="list-style-type: none"> ・症状に応じた衣服の着脱について ・洗面の意義・効果 ・目、口腔、鼻腔、爪の清潔方法について ・足浴、手浴、洗髪について
⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立支援	6.5	6.5	0	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎移動・移乗の介護の基本 <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗の持つ意味と移動・移乗介助のポイントについて ・車いすの移動・外出の持つ意味について

				<ul style="list-style-type: none"> ◎体位・姿勢の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> ・体位変換の意味 ◎移乗を行う際の 環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗介助の注意点について ◎移動・移譲介助に関する福祉用具 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具とその活用方法について ◎心身の状態に合わせた移乗介護 ◎移動を行う際の環境整備 ◎移動介助と留意点 <ul style="list-style-type: none"> <実技・演習、視聴覚教材 (DVD) 使用> ◎グループワーク実施 <ul style="list-style-type: none"> ・体位変換、安全な移乗介助、車いす、杖の種類と移動介助について ・車いす、補助具の使い方と特徴について
⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立支援	6. 5	6. 5	0	<ul style="list-style-type: none"> <講義内容> ◎食事に関する基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> ・食事をする意味 ・食事の生体機能 ◎食事の介護 <ul style="list-style-type: none"> ・食事の介護の基本について ・食事のアセスメントについて ・食事介助のポイントについて ・食事の環境整備について ◎口腔ケアの支援技術 <ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアの意義について ・口腔のしくみとはたらきについて ・口腔ケアの基本について ・口腔の管理について <実技・演習、視聴覚教材 (DVD) 使用> ◎グループワーク実施 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な支援技術を学び、身体の状態に応じた食事介助の方法 ・食事の自助具の使い方・環境整備 ・器質的な口腔ケア、機能的な口腔ケアの介助方法
⑨入浴に関連したところとからだのしくみと自立支援	6	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <講義内容> ◎入浴介助の基本 <ul style="list-style-type: none"> ・入浴の持つ意味と入浴（清潔保持）行動のしくみについて ・入浴介助のポイントについて ◎入浴介助に関する福祉用具 <ul style="list-style-type: none"> ・入浴のための福祉用具について ◎入浴介助を行う際の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・入浴の介助 について ・障がい別、入浴の環境と介助について ・リフト浴と機械浴の介護について ◎清潔保持 <ul style="list-style-type: none"> ・全身清拭、陰部洗浄、部分浴について <実技・演習、視聴覚教材 (DVD) 使用> ◎グループワーク実施 <ul style="list-style-type: none"> ・入浴前後の環境整備、入浴に必要な準備物の確認方法 ・入浴前後の健康チェック ・身体（障がい別）の状況に応じた入浴介護の手順 ・清拭介助のポイントと手順
⑩排せつに関連したところとからだのしくみと自立支援	6	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <講義内容> ◎排せつ介助の基本 <ul style="list-style-type: none"> ・排せつのもつ意味について ・排せつのしくみについて ・排せつ介助のポイントについて ・「おむつ」の使用と自立支援について ◎排泄介助に関する福祉用具 <ul style="list-style-type: none"> ・排せつのための用具について ◎排泄の介助 <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ（様式）について ・ポータブルトイレでの排せつ介助（片麻痺、一部介助）、 ・ポータブルトイレでの排せつ介助（片麻痺、一部介助）、尿器、差し込み便器について差し込み便器について ・おむつ交換について <実技実技・演習、視聴覚教材 (DVD) 使用>

				<ul style="list-style-type: none"> ◎グループワーク実施 ◎グループワーク実施 ◎多様な排泄介助・技術の習得 <ul style="list-style-type: none"> ・排泄介助方法（片麻痺・つえ歩行） ・おむつの種類と使用方法、交換手順 ・排泄に関する福祉用具特徴と活用方法
⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立支援	3	3	0	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎睡眠に関する基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠の意味について ・睡眠のしくみについて ・睡眠の状態と睡眠障害の原因把握について ◎睡眠の介護 <ul style="list-style-type: none"> ・安眠への支援について ・寝具の整え方の意味について ・寝具の整え方の原則について ・ベッド上での介助・留意点について ・安眠のための環境整備 ◎その他の福祉用具 <ul style="list-style-type: none"> ・電動ベッド・付属品に関する用具とその活用方法について <p><実技・演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎グループワーク実施 <ul style="list-style-type: none"> ・寝具の整え方（シーツ交換・たたみ方） ・安楽な姿勢と福祉用具活用
⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと自立支援	4	4	0	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎老いと衰えの理解とその対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケアについて ・死に至るまでの一般的な経過について ・老いと衰えが進みつつある時期のケアについて ◎ターミナルケアの実際 <ul style="list-style-type: none"> ・看取りに向けた体制づくりについて ・臨終が近づいたときの症状や兆候とのかかわり方について ・看取りの実際とグリーフケアについて ・家族のケアの留意点について
⑬介護過程の基礎的理解	6	6	0	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎介護過程の基礎的理解 <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の目的・意義について ・介護過程の展開について ・介護におけるチームの役割と重要性について ◎介護過程の展開と実際 <ul style="list-style-type: none"> ・「根拠」や「理由」に基づく介護の実践について <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎専門性を活かした介護過程の展開 ◎グループワーク実施 <ul style="list-style-type: none"> ・介護計画（個別援助計画）・介護予防・悪化の防止・生活の再構築について、グループで検討した内容を受講生全員が共有する
⑭総合生活支援技術	6	6	0	<p><講義・演習></p> <p>生活場面、障がい状況の異なる事例を通し、具体的な介護内容および介護の留意点等、どのような支援を行うべきかグループで、演習、検討をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護情報（フェイスシート）アセスメント・プロセスシート ・介護計画書・介護手順書の作成
(合計時間数)	75	63	12	

使用する機器・備品等	ベッド、車いす、ポータブルトイレ、簡易浴槽など 白杖、杖、アイマスク、シーツ、枕、衣類、タオル、バスタオル、歯ブラシ、ヘアブラシ、櫛、コップ、スプーン、バケツ、おむつ、温度計、シャンプー、リンス、ドライヤー、ゴム手袋、消毒液、綿棒、爪切り、軍手、ごみ袋、新聞紙、尿取りパット、トロミ剤他
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称：株式会社ワイズブレイン

科目番号・科目名	(10) 振り返り (4時間)			
指導目標	<p>①初任者研修の全過程を振り返り、研修を通して学んだこと、習得したことについて再確認を行う。また、利用者一人ひとりに向き合い、寄り添い、各々の尊厳を守りながら自立に向けた支援を行うためには、日々継続して学習・研鑽する姿勢を持つことが大切とであることを再確認を促す。</p> <p>②介護職員としての基本的な姿勢はいうまでもなく、日常的に自身を高める課題を明確に意識しながら就業する姿勢の重要性について再確認を行う。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①多様なサービスの理解	3	3	0	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して学んだこと。 ・今後継続して学ぶべきこと。 ・根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等） <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の事項について、今後継続して学ぶことについてグループディスカッションを行う。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	1	1	0	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に学ぶべきこと。 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例を紹介。
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。